

山の考古学

平成26年度の
発掘調査成果

万瀬遺跡

まんぜ

設楽町川向



万瀬遺跡は豊川の支流の一つである境川右岸の東向き斜面に位置しています。

調査では、縄文時代の注口土器や深鉢の破片、叩石などが見つかりました。

この集石遺構の最下部から被熱痕と敲打痕が残る台石が見つかりました。この台石は、鍛冶作業に伴うものと思われる。出土した陶磁器や土器は、江戸時代後期のものですが、一部江戸時代初期まで遡るものもありました。

西地・東地遺跡

にしじ ひがしじ

設楽町大名倉

西地・東地遺跡は、標高約450メートル、寒狭川左岸の緩傾斜地および河岸段丘上に位置します。調査範囲の東部では4メートル以上の土石流堆積物の上に、近世の埋葬遺構を確認しました。西部では、縄文時代と近世前半以前の遺構や遺物を、良好な状態で確認しました。

近世では、炉跡や竪穴状遺構、掘立柱建物などがあり、炉跡や竪穴状遺構の周辺では、鉄滓や赤色化した台石などが出土しました。

縄文時代の遺構は、竪穴建物跡5棟、袋状土坑5基以上、土器埋設遺構2基などがありました。縄文時代中期後半の竪穴建物跡3棟には、石囲炉が見つかりました。後期初頭の竪穴建物跡2棟のうち一つには、建物の中央に土器敷炉が、南西端の床下に埋裏が確認できました。別の竪穴建物は、中央部付近に土器敷炉があり、その脇に入れ子状態の深鉢が立った状態で埋められ、北西端には大きな台石がありました。



縄文時代の遺物は、中期から後期の物が多く見つかりました。他に石鏃や剥片石器、滑車形耳飾片、大型石棒などが見つかりました。



古墳時代の集落を確認!!

ひめした 姫下遺跡

安城市姫小川町

今回の調査区は、この遺跡の南端を区切ると推定された旧河道よりも南側になります。調査の結果、古墳時代前半の竪穴建物や、平安時代の掘立柱建物跡などが確認され、集落が展開することが確認されました。また、なかでも一辺が10メートルを超える竪穴建物跡は、愛知県でもあまり見つかっていない最大級の大きさです。

よせじま 寄島遺跡

安城市小川町

本年度の調査では、古墳時代以前の自然河道を確認しました。その河道の南側の自然堤防上に、古墳時代の竪穴建物跡を2棟検出しました。自然河道の北側では、古墳の溝と推定される溝の連続と、方形周溝墓が確認されました。姫下遺跡との境界にあたるE区で竪穴建物跡が見つかったことから、集落が姫下遺跡の方に展開して行くことが予想されます。

しもかけ 下懸遺跡

安城市小川町

今年度の調査では、主に古墳時代の溝群や小土坑が確認されました。溝群は幅40センチ、深さ20センチ程度の溝が数条、平行して走るものです。このような遺構群は、下懸遺跡と寄島遺跡で特徴的に見られるものです。また、幅3メートルで深さ20センチほどの東西方向へ走る溝を一条確認しました。これはこれまで確認されていない形の溝で、古墳時代前半の土師器の壺、高杯が出土しました。

鹿乗川流域の遺跡群



源義朝の伝承地の隣 平安時代を確認!!



ごんろく 権六遺跡

知多郡美浜町大字野間

名鉄野間駅の西側に位置しています。調査の結果、中世の掘立柱建物1棟、竪穴建物1棟、柱穴列4列以上、溝10条、土坑・柱穴多数と、江戸時代後期以後の井戸2基、溝2条、土坑多数とが確認できました。また出土遺物では、古墳時代前期後半から江戸時代にかけての土器などが見つかりました。

調査区は狭いけれど。

みずいり 水入遺跡

豊田市渡刈町



水入遺跡は、平成十一年度に発掘調査が行われています。奈良・平安時代から鎌倉時代の集落遺跡です。今回は、豊田東ICの料金所の増設に伴う発掘調査でした。発掘調査では狭小な面積にも関わらず、多数の遺構が確認されました。遺物は少量しか確認されませんが、遺構が高密度で存在することが明らかになりました。

